



議会だより

議場の議員



仁淀川町議会議長 岡田良成

六月定例会

町長行政報告（役場本庁舎新築事業他）	2P
提案・提案・提案議会の幕開	3P
一般質問 注目のあつまる庁舎建設 5人の議員が質問・提案	3～13P
新庁舎・規模・機能性・安全性・将来性	5P
コラム 中学生になって（仁淀中学校1年生）	5・6・9P
教育長行政報告（大崎小学校改修費予算計上）	11P
ここが聞きたいQ&A	14・15P
日記帳（議員活動、出席行事一覧表）	18P

町長行政報告

平成26年春の叙勲が4月29日に発令、元池川町消防団副団長の井上定光（さだみつ）氏が瑞宝単光章を受章。

井上氏は、昭和34年7月に旧池川町消防団団員に任命され40年余、消防活動に貢献され、受章の栄誉に輝かれた。

また、旧池川町議会議員、竹村光則氏が旭日単

光章を受章された。

仁淀川町出身者で組織する近畿仁淀川会の総会が、2月25日に大阪市で開催、総会後は、ふると仁淀川町の近況報告や意見交換を行い、今後のご支援、ご協力をお願いした。

役場本庁舎新築事業について、設計業者の募集を1月20日に開始し、書類選考で4業者を選定、4月4日にプロポーザル



大石町長

方式での審査の結果、久米設計大阪支社と高知市のASA設計事務所の共同企業体に設計業務を委託。5月2日及び6月2日には議員全員協議会において説明、協議なども行った。

6月18日には各種団体や住民代表の方々と構成する仁淀川町役場庁舎建設検討委員会を立ち上げ、協議を重ね、9月末をめどに基本設計の完了を考えている。

庁舎の規模や機能は基本設計の段階で決まるため十分詰め、いかなる災害にも強く、行政機能を継続できる強い庁舎。また、激動、激変する社会の中でしなやかに対応し、長寿命の庁舎づくりを最優先課題とし、これに地域産材の有効活用や建築費及び維持管理コストの抑制などの視点を加え、検討していく。

次に、移住促進の取組みにおける実績について、平成25年度は、13世帯23名で、移住相談員や地域

おこし協力隊員の配置などによる効果があらわれた。

本年度も、移住相談員や地域おこし協力隊員による、空き家状況の調査や移住相談者への対応、高知県主催の東京や大阪での移住相談会への参加などを行い、移住の促進に努める。

旧池川自然学園を活用した移住交流拠点施設の運営は地元との協議の結果、3月26日の移住体験の活動拠点と位置付け、移住希望のお試し移住の共同住宅として利用、移住希望者にイベントなどへの参加を促すとともに、施設の維持管理も管理運営スタッフと力を合わせ、地域住民の方々にも協力をいただき地区住民との協働を基本に事業を展開していく。今回移住共同住宅の改修関連予算を計上している。

続いて地域おこし協力隊について、3月末及び9月末には隊員の任期が終わり、隊員の募集を行

っているが、定員割れの状況にある。3月末に終了した隊員は、県の緊急雇用創出臨時基金事業を活用、引き続き町内で活動いただき、9月末の隊員も町内での定住を目指した活動を行っている。

次に、買物支援サービスについて、日常の買い物に不自由しておられる高齢者など「買い物弱者」の支援策として、5月23日の町商工会総会で当該事業の実施が決定、町も県補助金の交付申請を行うなど支援態勢を整え、8月の事業開始を目指している。

平成25年度町税の収納状況は、固定資産税における償却資産の減少などの影響から昨年度に比べ約1千万円少ない5億5千4百万円。現年度分の徴収率は昨年度より低い99・36%で、滞納繰越分については、昨年度より低い18・27%となっている。町税全体の徴収率は、97・75%となり、県内の市町村の中でも非常に高

い徴収率で、今後も公平な賦課、徴収に努める。

次は、税条例等の一部改正。特に町民の皆様に影響のある内容について。

国民健康保険税は、平成26年度分から課税限度額を引き上げる一方、軽減判定基準額を見直し、5割及び2割軽減の対象者を拡大する。軽自動車税額は、平成27年度分から引き上げる。この引き上げは、多くの住民の方の負担が増えることになる。これは、税制抜本改革による地方税法の改正に伴うもので、ご理解をお願い申し上げる。

最後に、業務に使用していたパソコンの基本ソフト、ウィンドウズXPが4月9日にサポートを終了。情報漏洩などの危険性が高まっていたが、4月21日までに、対応をすべて終了している。

この間、被害の報告はなく、より一層、情報漏洩の防止などに取り組んでいく。

提案議会幕開け（一般質問）

平成26年6月定例会。6月10日、11日の2日間開かれ、8人が一般質問。

提案・提案・提案 町長の手腕を問う

本年5月29日に法務局へ成果品を持ち込み、現

答
町 長

長者乙地区の国土調査事業は法務局での認証手続きが26年度中に完了との事であるがその後変更はないか。

問
藤村良太郎

交通量の多い路線 早急に手だてを



答 必要な箇所から対応

問
藤 村

在審査中、登記完了までには約半年を要する。

長者地区の大前からJACコスモス出張所前に続く町道中央線は長者地域住民や、日鉄鉱業鳥形山鉱業所の送迎バスさらには宅配便や郵便配達、その他商業用車両などさまざまな方が利用する交通量の多い路線であるが、幅員が狭く待避所も途中一カ所という事で通行には不便かつ危険な道路である。

本来ならば2車線の全面改良を実施したい所であるが、道路用地確保や道路サイドに人家が点在しており実現は困難と思えるので、応急的な手段として側溝を蓋付きのものに改修し幅員の確保を図れないか。

またこの間は舗装面が全面的に亀裂が生じ、部分補修で急場をしのいでいるが全面的に舗装のやり換えは出来ないか。

答
町 長

舗装工事については路盤、路床の補強処理後アスファルト舗装を行う必要がある。側溝蓋については側溝自体の改修を含めて検討しなければならぬが、施工については国・県の補助金又は交付金などで必要な箇所から対応していく。

問
藤 村

3、4年前に町は10%有利な買い物券を発行し町民から好評を得、地域の商店や飲食店の売り上げにも貢献できたように聞いている。

答
町 長

本年4月から消費税が8%となり、経済状況によつては来年の秋頃には10%になるとも言われている。本町においては増税に対する町民の負担を軽減するために地域振興券の発行は効果があると思うが。

平成21年度から平成23年度まで実施し、評判は良かったと聞いている。しかし、利用する人が限定されるとか、商店などの新たな需要には繋がっていないなどの意見もあり、来年度の消費税状況など今後の情勢を考慮して検討する。



亀裂の多い長者地区



質問中 西森常晴

旧名野川小活用のアイデアを 全国に公募しては

答 検討したい

問

西森常晴

旧名小の活用方法を、全国レベルで公募してはどうか。

答

教育長

24年度に閉校となった名小は、敷地が借地であるがゆえに、有効な手立てがなく難渋している。

問

西森(常)

文科省は、財政難を前面に出して、小規模校の統合を推進している。

教育長は、まだ31名も残っている大崎小も含め、保護者を指導しきれなかった。

小学校がなくなった地域は元気がなくなる。

そうならないために、全国規模で、名野川地域復興のアイデアを提案してもらってはどうか。

答

町長

閉校になった校舎を地域の活性化に活かしたい。活用方法は検討していく。

人工林を自然
公園化に

問

西森(常)

山林面積89%の当町、計画的に強力に、間伐を行えば、スケールの大きな自然公園に化けるが。

答

町長

現在の間伐実施率は30%である。残り70%を10年で間伐するとなると、46億円の経費がかかる。

問

西森(常)

間伐すると、木の隙間から光が当たる。光が当たると、何十年か眠っていた実が花を咲かせる。花が咲くと虫が来る。虫を食べに鳥が来る。鳥は色々な種の糞を出す。その糞は多種多様の花を咲かせる。

長野県の黒姫山に30ヘクタールの自然林を作った、C・Wニコルさんの山には、22種の絶滅危惧種が戻り、山菜が7種類から137種類に増え、都心から多くの人が心を癒しに訪れるそうだ。

上名野川には、全国専門誌にも取り上げられた自伐林家がいる。

指導を仰ぎ、一人でも多くの若者が、自伐林家として自立していけば、人が増え、町全体が自然

公園になれば、観光客も増え、一挙三得の町づくりが可能となるが。

答

町長

間伐は避けて通れないと思っている。今まで以上に間伐促進には力を入れていきたい。

町産材の活用を

問

西森(常)

新庁舎は、町民が望む建物となるのか。

町のアイデンティティは何か。

答

町長

町民の意見に共通する部分は利便性と機能性ではないか。

町の基本的な考えは、第一に機能的で利用しやすい、可能な限りの町産材を活用した庁舎。

第二に、災害時に十分に力が発揮できる設備を備えた庁舎。

第三は、環境に優しい

経済的で長寿命化に対応した庁舎。

問

西森(常)

梶原町は1994年、当時の橋本大二郎知事の盟友、慶応OBの隈研吾氏に「雲の上のホテル」を設計依頼。

2006年の「総合庁舎」、2010年には「木橋ミュージアム」まで全て同一の設計者だ。

建築家の隈研吾氏は、昨年歌舞伎座の建て替えに携わり話題をさらった。本山町は、まだ実績のないCLTを採用した。

「新しい庁舎は木造で」「多くの町産材を使え」は、町議全員の意見だ。

答

町長

可能な限り木材を使っていく。

規模、大きさは将来性を見据えた、建築物でなければならぬ。

70人前後の規模の集会並びに避難所としての機能を持たせる事は重要で、また住民、来客者に好印象を与えるよう多様性も図るべきだ。

問

野村安夫

新庁舎、規模、機能性
安全性、将来性は

答

多角的に検討する



安全面では耐震免震構造はもちろんだが、新庁舎の周囲では、交通事故が発生しないように取り付け道路など万全の配慮を。

答

町 長

新庁舎の規模総面積は3千600平方メートルを予定し適正と考えている。また機能的にも利用度の高い課を1階に配置し、壁の少ない開放的な空間にし、多種多様に対応する。

安全性についても、大地震に強い免震構造を採用し、非常時の対応を充実させる。

将来的にはLED照明の設置、環境配慮型の省エネルギー設計、内外装材や機器も耐久性が高く、メンテナンス費用が低減できる材料や機器を使用し長寿命化を図る。そして質問のあった議場の多種多様化また新庁舎周辺の交通状況も考慮し色々な面で検討する。

問

野 村

維持費、管理費、人口減に考慮を。

国道33号線から新庁舎入口の電柱の撤去、非常階段の数を増やしてもらいたい。

答

町 長

過大な考えはなく、適正な庁舎にしたい。
庁舎入口の電柱、非常階段は検討する。

国道494号線に関して

問

野 村

愛媛県側から比べると工事の進捗率が非常に低い。
早期改良にむけての考えは。

答

町 長

この道は国道33号の代替補完路線であるとともに、生活を支える最も重要な「命の道」である。

本年度は大西工区に対し、前年比1.6倍8千万円の事業費を投じ改良の促進を図り、新たに赤やぶ橋から土居にかけ12キロメートルの区間を道路概略設計と地権者の調査に着手する。今後においては愛媛県側とも協力しながら、国、県、地元国会議員に要望していく。

池川コミセン4階
音響設備に関して

問

野 村

この設備については、アンプ、スピーカー、マイクなど全ての物が十分でないという声が聞かれるが改善できないか。

答

門田池川総合支所長

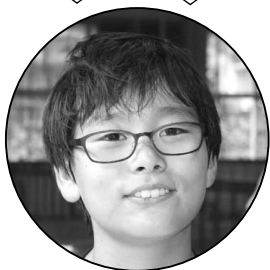
マイクなど十分でない物もあるので検討して取り替えていく。

答

町 長

本年1月にトラブルがあった機器については取り替えた。今後も、適正な維持管理を行い、必要であれば取り替える。

コ ラ ム



中学生になって

緊張していたら、班長さんが優しくしてくれて、ちよつと気持ちになりました。

縄跳びの時は、僕が

「跳ぶのが苦手だから回します。」

僕は今年、中学校生活という、小学校とは違う、新生活が始まりました。
一年生歓迎レク集会では、最初、班を発表され、知らない人ばかりでとても

と言うと、
「ひっかかっていいから飛びや。」
と言ってくれてとても嬉しくなりました。仁淀中学校恒例のビー玉コロコロでは、僕たちの班は遅くて、僕が、ビー玉を落とすことが多かったけどにらんだらず、班長さんや班員が優しく、
「大丈夫。」

など声をかけてくれて遠慮せず協力して楽しむことができました。

僕は、これから三年間で、とても勉強して、高校でレベルの高い所にいけるように頑張りたいです。

1年 岡村 隼人

集団検診について、検査対象者に対し受診者の割合、各がんの受診割合は。

問

竹本文直

地域医療について

答

2名体制の維持



答

町 長

平成24年度の数値として肺がん44.5%・胃がん30.4%・大腸がん35.1%・子宮がん14%・乳がん43.9%・特定健診39.9%・後期高齢者53%となっている。

問

竹 本

今の検査は体力の弱った方々にはしんどい。女性の検診も受診者の負担は大きい。

味の素が開発した「アミノインデックス・がんリスクスクリーニング」一回わずか5ccの採血で一度に複数のがんリスクが分かる（胃がん、乳がん、肺がん、大腸がん、前立腺がん、子宮・卵巣がん）早期がんの非常に小さい物まで対応できる。日本での死因の一位はがん、他の疾患に比べ増加傾向にある、早期発見、早期治療は将来の医療費削減に繋がる。検診に味の素開発のこれを取り入れてはどうか。

答

吉村健福祉課長

ご指摘の方法については勉強不足でよく分からない。町の健診で可能かどうか（取り入れられるのかどうか）については、今後県などにも相談し時間をかけて検討していきたい。

地域医療について

問

竹 本

仁淀川町は医師確保に苦勞をしている。大崎診療所は2名体制だが1名は椿原と掛け持ち、このような厳しいおり、長年池川地区の医療を支えてきた酒井医院が保険診療機関でなくなつて2年を迎える。

4月9日には町長、議長に地域住民の声を聴いていただいたが町長はこの声を、どのように聞き、受け止め、対処されたのか。

答

町 長

大崎診療所では医師2名と歯科医師1名が勤務し、うち医師1名は週1回椿原病院へも行って

今後とも2名体制の維持確保に努力する。酒井医院の件については地域住民の声を聞き、酒井医師のような地域に密着した、身近で信頼できる医師の必要性を痛感した。

問

竹 本

県とも連携し酒井医院の一日も早い保険医療機関の再指定に向けてしっかりと取り組んでいくため、資料を今集めている。

酒井医師は、依頼があれば昼夜を問わず患者を受け入れ、医院まで来られない患者には訪問し、緊急を要する場合には救急車を要請し今でも搬送している。

町長には「住民を守る

答

町 長

義務と責任がある」一刻も早く町長と議長この仁淀川町を代表する二人が関係機関に強く働きかけをして欲しい。

本町の住民の生命を守る上で地域医療は大事だと思っており、酒井先生の存在は非常に大事だ。一日も早く再指定を目指し、議長とも連携をとりながら県、関係機関へも常に訴えていく。



中学生になつて

今年の春、私たち18人は中学生になりました。私と早苗ちゃんは春休みからバレーボール部に行き始めました。初日は何が

は谷本先生がいなかったので見学、ボール拾いでした。次の日もボール拾いでした。家に帰ってお母さんに、「どうしてボール拾いなの？」と聞いてみました。すると、「最初はボール拾いで！」と言ったのでびっくりしました。

でも今はボール拾いの他にも、オーバールの練習や朝練でのサーブ練習をしています。そういう基礎練習を今、真剣にやっていたら、慣れた時に役に立つと思つてやっています。ボール拾いも後で役に立つと思つてやっています。

1年 安井 楓

要るのかなあ、しんどいのかなあと思いつながら行きました。体育館に着くと、ゆなさんと、るなさんがいて荷物の置き場所などを優しく教えてくれました。初日

新庁舎について

問

竹 本

新庁舎の計画を見ると木材の使用量が少ない。国は「公共建築物木材利用促進法」を制定し、省庁や自治体に国産材の利用を求めている。建物本体だけでなくエントランスや窓口、内装、机や椅子等の備品、暖房の燃料にまで及んでいる。他町村に比べて面積が大きすぎる、人口6千数百名で3千600平方メートルは必要ない。

答

町 長

3千平方メートルあればよい。



梶原町庁舎（研修会にて）

問

竹 本

木造化する意義は地球温暖化防止、断熱性、調

造とする場合の建築方法は限られ、現代の技術では不可能ではないが大断面の集成材、CLTは、特殊な加工が必要で他県で加工するため輸送費や加工費が高額になる。内装材や建具などだけでなく町産材を使い、規模についても必要以上のものは考えていない。

答

町 長

湿性に優れており、町産材を利用することで地域の林業生産活動、木材、施工関連産業の活性化につながり町のシンボルとしてふさわしい。準耐火にすれば問題なく基準はクリアできる。

今までも各施設はできるだけ木造でやってきた。地元で調達できる木材をいかに使っていくか、これから設計を詰めていく中で内装、事務机を含め木質化し町産材を使っていく。

問

竹 本

木造にすると単価が高くなる。町の事だが、近隣町村を参考にするとRC構造の単価と木造では1.2倍から3倍の差でしかない。町有林もあり活用すべき。

答

町 長

限られた敷地の中では木造は難しい。可能な限り木材を使っていく。



梶原町庁舎（研修会にて）



土佐町庁舎（研修会にて）

災害対策

問

竹 本

町では、地域防災対策の見直しを進めているが高齢者、重度身体障がい者の支援はどうするのか。計画の進行状況、避難先での情報収集をどのように考えているか。

答

町 長

災害時要配慮者の支援プランは現在策定中。避難先の情報収集については防災行政無線、消防無線、アマチュア無線など官民一体となるよう体制を整える。福祉避難所は町内のデイサービスセンターと協定を結び対処する。

原発再稼働の賛否



答

必要最小限の再稼働

問

片岡智準

原子力発電所の再稼働をめぐるさまざまな問題点が指摘されているが、仁淀川町の基本スタンスは「賛成」か「反対」か。反対なら代替エネルギーの意見、準備は。

答

町長

原子力発電は他の発電に比べ経済性が高い。ただ事故が起こった場合環境に及ぼす影響は計り知れず、諸手を挙げて賛成できない。

しかし、今の日本は原発が存在し、国民生活や経済活動が営まれている。脱原発を願っているが、現状では必要最小限の再稼働も認識している。

問

片岡(智)

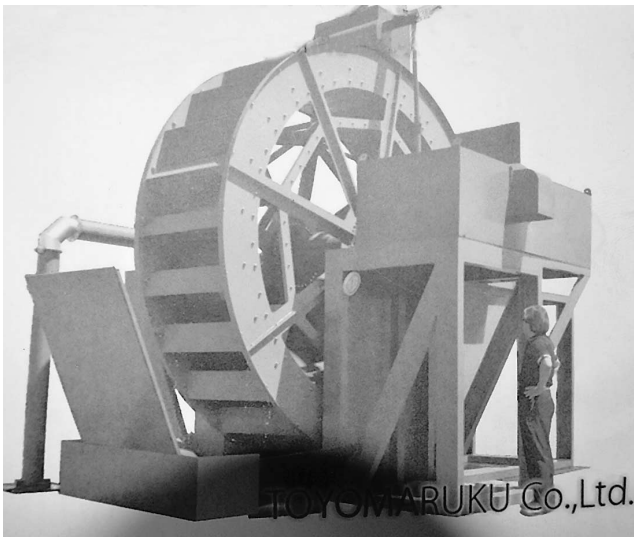
私も再稼働はやむを得ないと考えている。消費税と相まって電力料金の高騰は必至となる。

また核のゴミ処理計画がない。現状は「核のゴミ」が永遠に残り、中止できない課題がある。確かに、原子力依存度を減らしてゆく計画は必要で、ここで代替エネルギーとしての水車発電を提案する。

太陽光や風力と比べ、多くの利点があり安定した電気の供給が望める。仁淀川流域には豊富な

「水」があり、資源は無限でコストは安価、二酸化炭素の排出もなく「エコ」設備、最大の期待は観光資源として利用できること。

越知は「平家の里」、佐川は「文教の町」のフレイズ。仁淀川町にフレイズはない。そこで「水車の町仁淀川町」。安居川、長者川などの水系にユニット型水車発電所を設置「水車群」を造り、観光事業を展開してゆく計画。計画には多くのメリットがあり、代替エネルギー



水車発電 (広告資料より)

ーとして地域活用、売電事業効果、鉄工所、建設関係者への経済効果、地球温暖化に配慮したエコへの取り組み、観光事業への効果など、一石数鳥の計画で仁淀川町の地形を利用した、他ではまねのできない計画だ。仁淀川町活性化のためにも検討を願う。

答

町長

仁淀川町では、太陽光、風力、バイオマス発電など検討したが採算合う状況

製茶農家への思い

況になかった。提言の水車発電、考え方では一石何鳥、地域活性化につながり、検討してみる。

問

片岡(智)

近年、お茶を作る人が年々減少、背景は労働力の低下が挙げられる。町は何もせず静観するののか「土佐茶」は途絶える。

労働力を補うため、町が茶畑の近くまで水を引けば楽になり、自己負担でもスプリンクラー設置すれば霜の心配もない。高齢者の手助けは、後継者のためでもあり、お茶農家に対する取り組みを提案する。

答

町長

お茶は主要作物、また地域景観の形成でも重要な役割を果たしている。提案の水道引き、受益個数があれば国、県の補助事業が活用でき要望があれば検討する。

庁舎建設の予算規模は

問

片岡(智)

庁舎建設のプレゼンを聞き少し立派過ぎるというのが率直な印象。予算規模はいくらか。

今後ＩＴ化が進み、資料のペーパーレス化、また規定集、条例などの電子化、入札もインターネット入札。情報管理の面でも確実な管理体制、この傾向はますます進む。これからの情勢に見合った庁舎建設を提案する。

答

町長

庁舎予算規模は約20億円を見込んでいる。指摘のとおり、ＩＴ機器の普及は役場の事務を大きく変化させる。しかし、ＩＴ化は全ての住民に当てはまるとは考えていない。現時点では書庫も必要最低限を念頭に基本設計を検討している。

ゴミの無料券 発行について



答

申請で発行

問

西森久雄

佐川町、越知町では年1回、清掃センターの無料券配布がある。仁淀川町でも配布する事ではないか。

答

町長

仁淀川町でもゴミの無料券は発行している。以前はボランティアの清掃時や火災で出たゴミなどに発行していたが、住民より大掃除などで家庭から大量に出るゴミの処理にこの券を使用したいとの要望があり、世帯主の申請により年1回1枚を数年前から発行していた。一度に家庭から大量のゴミが出されるのを防ぎ、収集が円滑に行えるためにも申請内容を精査し発行していきたい。

住民への周知が不十分であったため、制度を知らなかった方もいると思うので早速に対応していく。

仁淀川町の基金
について

問

西森（久）

旧吾川、池川については言えないが、旧仁淀村の基金は早く活用できないか。例えば、今、泉川地区で飲料水をとるようになっている。本来なら一般財源から支出すべきものだが、支出できないのであれば、この基金を使用できないか。

答

町長

現在、担当課が県の単独補助事業などを活用し、何とか事業実施していきたいと調整している。町民の生活に欠くことができない事業のため、一般財源で対応していきたい。地域振興基金はそれぞれの地域の抱えている課題について、意見も聞きながら、適切に有効に活用したい。

コラム



中学生になつて

僕は、中学生になって思うことがたくさんあります。
6年生のころは、中学校には、怖い先生や、厳しい先生などがたくさんいる

学式が始まりました。まだ不安が取れないまま中学校生活が始まりました。

どの先生も優しく教えてくれたので、不安はなくなっていました。一番心配だった、友達ができるかどうかは、別府小の人とも友達になれ、先輩たちとも仲良くなれたので、心配はなくなりました。

これからまだまだ不安や心配ごとがでくると思うけど、先輩や、先生たちに教えてもらいながらやっていきたいです。

そして、色々な行事を、皆協力して頑張っていきたいです。

1年 新納 憂大

と聞いてすごく不安になっていました。先輩、後輩の関係でも友達ができるのか心配でした。
そして、ついに4月7日、中学校入



仁淀中ソフトボール部

問

片岡政徳

新庁舎のイメージ図が提示されたが、鉄筋コンクリート造となっている。本町は89%が森林で、町長も日頃より林業の活性化を目指し、林産組合、森林組合に補助、出資をして森林整備を図っている。

答

町 長

木質ラーメン構造は3千平方メートル以内の部分を準耐火建築物とすれば木造可能だが、RC造に比べ耐用年数が短く、大規模建築物の場合コストが高くなり、短いスパンで柱を建てるため柔軟性が損なわれる。

木造は温かみがあり林業の町の拠点施設として望ましいが、耐久性、堅守など防災拠点施設となる点ではRC構造がよいと判断した。

今後、法的、技術的に検討し、可能な限り木質を併用する。内装材、建具などは町産材を積極的に活用する。



質問中 片岡政徳

問

片岡（政）

大渡ダム公園で毎年行われる、神楽伝統文化の競演が5月17日に行われたが、集客数が少なかった。この催しはそれぞれの団体には重要で継続が必要と考える。

今年は4月に職員の異動もあり相互の打ち合わせ

ができない状態で行っている。今後は相互が密に打ち合わせ、場所なども考えてはどうか。

本町には何百年も伝承の国指定重要無形民俗文化財の神楽が3団体、他にも多くの伝統文化が町の財産として残っている。町は伝承、継承をどのように考えているか。

答

教育長

伝統文化は地域の宝であり、仁淀川町振興計画に位置づけ伝承に努めることとなっている。

平成20年より行われている神楽、伝統文化の競演は、貴重な文化を一堂に会し観る機会であり、平成22年の合併5周年記念行事では、池川神社に移し、秋葉祭り、招待神楽も参加し盛大に行った。

今年は関係者と打ち合わせができなかった事をお詫びする。来年は合併10周年記念となり、早い時期に打ち合わせ場所、招待団体など考え盛大な大会としたい。

こうした活動を通じ、伝統文化、地域文化の保存、継承につなげたい。

問

片岡（政）

神楽は、過疎少子高齢化で奉納する神社も減り、後継者も少なくなっている。他の伝統文化も同じ状況だと思う。

町が状況を把握し保存、伝承に必要な施設を造っては。

答

教育長

継承が厳しくなった今、保存に関係する場所、建物など考えなければと思う。資料の保存、記録を残して、公開できる施設を学校の空き室など活用し、保存、継承の取り組みも検討していく。

答

町 長

過疎少子高齢化が進み継承が課題となっている。国、県の補助事業を活用し一定取り組んでいる。今後は保存会と相談、保存、継承を検討する。

問

片岡（政）

移住者の学童の通学が問題となる事例がある。スクールバスの運行ルートの変更は1年かかり、他の交通機関では多額の費用が掛かるといいうが、移住促進を進めるには諸問題の早急な解決が必要と考えるが。



特設舞台で披露される神楽（名野川神楽より）

答

教育長

スクールバス路線は、大崎小統合のため路線を整え4月より運行している。利便性の高い路線が必要だが、個々の家庭までは難しく主要な集落の中心部の停留所を定めている。

移住の相談では子供を含む家族には通学、通園の情報は知らせている。今後に必要な情報は提供していく。

問

片岡(政)

昔のスクールバス路線で、今の路線を少し延長すればの話したが、移住促進のため柔軟な考えを。

答

谷平教育次長

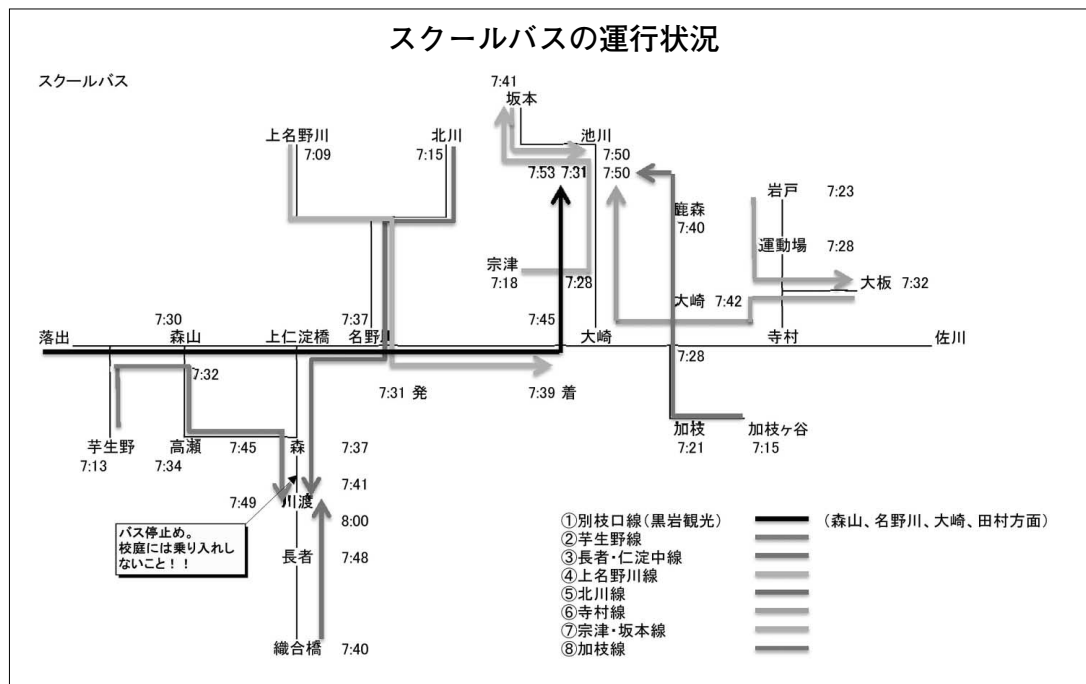
学校再編で検討した路線で、停留所より長距離を歩く学童もいる関係から、全体を検討している。企画課、指定管理者との相談などで1年間かかるといったことで、捨て置くものではない。

答

片岡企画課長

町民バス路線と共有の場合は地域公共交通会議にかけた後に変更となる。

スクールバスの運行状況



教育長行政報告

本年4月1日に本町教育行政方針周知徹底のため研修会を行い、児童生徒が抱える課題解決や学力向上を目指し、教職員全員での取り組みを確認し新年度が始まった。大崎小学校と統合した池川小学校は児童総数77名で新スタートとなった。5月に長者小・別府小



教育長 大野敏光

連合と池川小、また仁淀中・池川中連合の修学旅行を実施した。中学校修学旅行中学生徒2名がインフルエンザB型に感染し旅行途中で保護者に迎えを依頼した。また、帰高後4名がインフルエンザB型と診断されたが現在は回復している。6月7日から実施された高吾地区中学校総合体育大会は仁淀中と池川中

のソフトボール、卓球、女子バレーボール、池川中のソフトテニスに参加し、両校のソフトボール、卓球と池川中のソフトテニスが県大会への出場を決めた。池川郷土館は建物が老朽化し取り壊しの計画が進め、郷土館内にある約400点の民具については池川文化財保護審議会委員と協議をし、池川総合支所2階に移動して展示するよう準備を進めている。今議会補正予算は、新庁舎建設に伴う大崎保育所の移転先として、旧大崎小学校の1階部分を保育所に改修し、2階部分は大崎地域の集会所機能を維持するための工事費2億5千万円と、同小グラウンド等改修工事としてグラウンドに保育所の園庭と防火水槽を埋設し、プール及びグラウンドの一部を駐車場に整備する工事費として1億円を計上、又これらの工事管理委託料に8百万円を計上している。その他、旧寺村小学校舎取り壊し工事費2千300万円を見込み計上している。

倒壊による被害や活力低下など、住民に外部不経済をもたらす空き家は撤去する必要がある。撤去する対象基準の制定や所有者への対応と撤去費の助成などを条例化してはどうか。

問

藤崎源彦

空き家対策を 条例化

答

動向を注視、慎重に



答

町長

少子高齢化や過疎化により、空き家などの増加が予想される。適正に管理されていない場合、倒壊による近隣住民などへの被害や不審者などの侵入、あるいは火災など周辺環境にも悪影響を及ぼす危険がある。

これらを鑑み、空き家の管理は所有者の責任である事を前提に、条例化や要綱の制定について国、県の動向にも注視し慎重に考えたい。

問

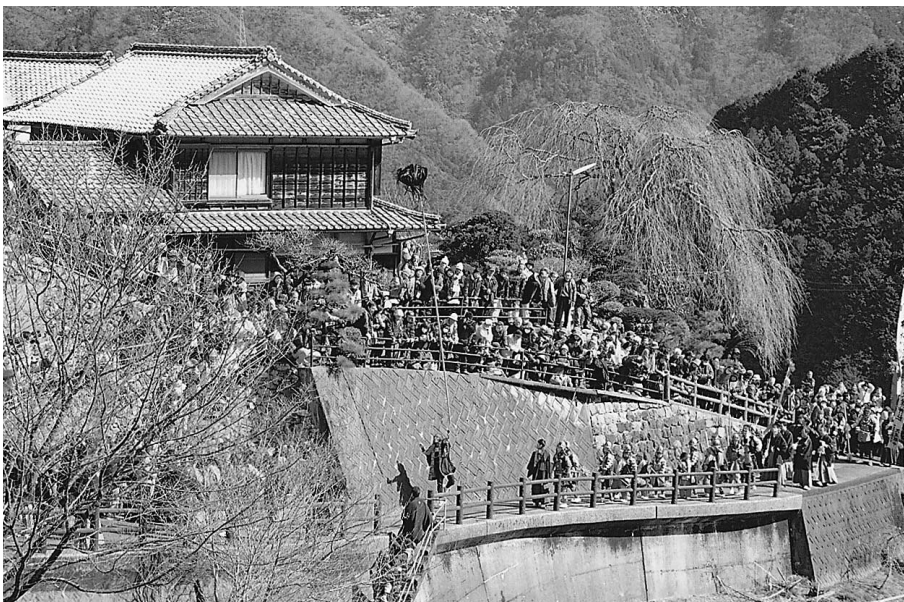
藤崎

空き家の活用方法としては、主に移住促進策として推進している。地域活性化の観点から、コミュニティスペースや地元産品の販売店としての利用や、町が所有者から借り上げ、リフォームして若者向け住居や在宅介護者向け住居として貸し出すなど、さまざまな活用方法について取り組んではどうか。

答

町長

地域活性化に向けての利用方法については、移住促進を中心に進めるが、大学から地域学の拠点として活用したいとの照会もあり、需要と供給のバランスを見極めつつさまざまな活用方法を検討する。



秋葉祭り（練と大石家のしだれ桜）

観光関連事業における地産外商の仕組みづくりは

問

藤崎

観光関連事業について今年前半の評価と課題への取り組みについて問う。

今年も秋葉祭りや花の名所には町外から多くの観光客が訪れた。しかしその割には観光収入が少ないのが現状である。

観光振興のためには、町主導のもと、商工会、地域住民、観光を推進するグループそして農協、漁協などが枠を越えて連携を強化し、受け入れ態勢の充実、サービス向上、経済効果向上等の課題解決に当たる事が求められる。

そこで、観光シーズン中は、全体を統括するリーダーを選任し、組織を作って活動してはどうか。

町内産品の販売促進や、満足度アップに努めると共に、特産品や飲食・宿泊施設の紹介及び名所案内等のPR活動も積極的に展開し、継続的かつ広範囲に経済効果が及ぶ仕組み作りに取り組んではどうか。

答

町長

仁淀ブルー効果に加え、新聞やテレビの報道による仁淀川や花の名所の紹介により観光客は近

年増加している。そのような中、本年度も上久喜の花桃はじめ各地での課題が二つある。

一つは駐車スペースの確保、二つ目は町内に外貨を落とす地産外商の仕組みづくりである。持続可能な観光地を目指すには、この課題について解決を図る必要がある。現在、ふるさと雇用事業補助金を活用し、商工会において町内全体を網羅した観光組織の検討を行っており、来年4月の新組織設立に向け準備を進めている。

町としても協力体制を整え、課題解決を図りながら地域観光の推進に努める。

問

藤崎

高知大学名誉教授の大野晃先生から提案があった、「によどまる」とミュージアム構想」の実現化について質問する。

これは、仁淀川町全体を一つのミュージアム（博物館）として、お金をかけるのではなく、今ある独自の魅力を活用し、

観光事業の拡大、交流人口の増大を図ろうとするもの。
地域活性化及び集落の再生を目指す、この構想の実現化に向けて取り組んではどうか。

答 町 長

によどまるごとコミュニティ構想は、都市部の住民を限界集落に迎え入れ、集落を天井のない青空コミュニティに見立て、地元住民が学芸員となり、交流を深め都会の人たちにリフレッシュしてもらうもの。
この町内にある人と自然・文化を生かした構想は、今後の山間地再生モデルとなる可能性がある。行政が積極的にサポートする仕組みづくりを検討する。

高吾北広域町村事務組合

議会報告

3月3日

高吾北広域町村事務組合平成26年度予算 全員賛成可決

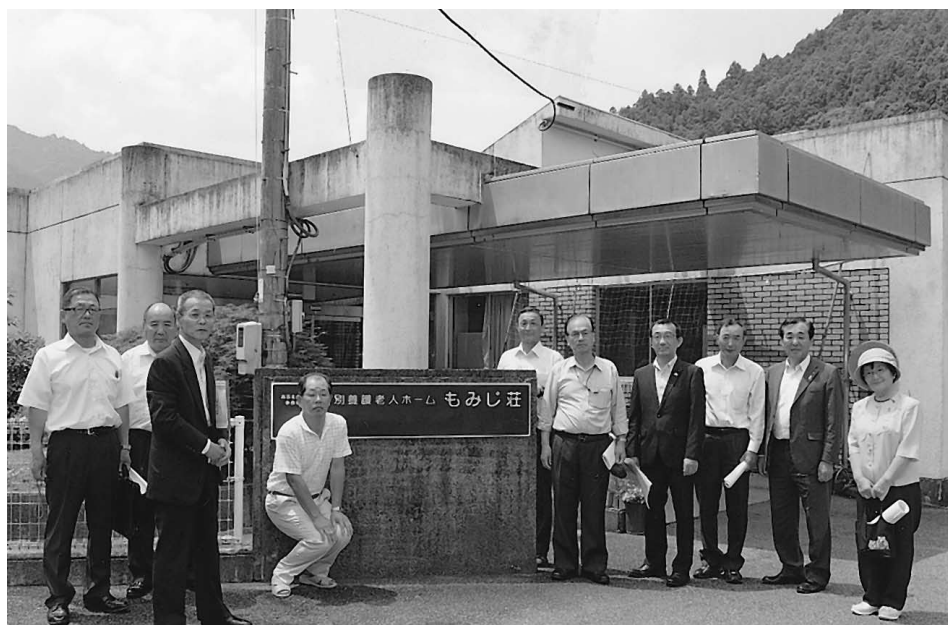
6月28日

広域事務組合関連施設視察
大石事務組合長、議員6名による

特老、養護、障害者支援施設、衛生センター、廃棄物処理場、し尿処理場、広域消防を視察、施設の老朽状況、管理・運営状況を確認、施設の問題点などの把握や適切な運営管理に資することとした。

高吾北広域町村事務組合 平成26年度予算

会計名		予算額	前年度比
一般会計		8億1949万円	6千606万1千円
特別会計	特別養護老人ホーム	12億2,568万6千円	247万5千円
	養護老人ホーム	1億1,050万8千円	△35万4千円
	障害者支援施設	1億6,619万2千円	126万1千円
	ふるさと市町村圏	947万5千円	689万5千円
合 計		23億3135万1千円	7千633万8千円



特別養護老人ホーム（もみじ荘）



廃棄物処理場

承認・可決(否決)された議案 Q & A

— 第3回(6月)定例会 —

○専決処分の報告

■仁淀川町税条例等の一部を改正する条例

地方税法等の改正に伴い、一部を改正。

(平成26年4月1日より適用)

(承認 全員)

■仁淀川町国民健康保険税条例の一部を改正する条例

地方税法等の改正に伴い、一部を改正。

(平成26年4月1日より適用)

(承認 全員)

■平成25年度仁淀川町一般会計補正予算(第7号)

(承認 全員)

■平成25年度仁淀川町簡易水道事業特別会計補正予算(第3号)

(承認 全員)

■平成25年度仁淀川町繰越明許費繰越計算書の報告について

問 片岡 智准議員

引地公衆トイレ用地購入事業がなぜ繰越されているのか。



答 片岡副町長

国道との境界部分で、町と、国土交通省の古い地図の境界が一致せず、昨年夏からやり取りをしているが、国の手続きが終了しなかったため。

(承認 全員)

○条例制定、改正

■仁淀川町多目的集会所等複合集会所施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について

下名野川地域集会所及び長者複合集会所施設を仁淀川町多目的集会所施設等複合集会所施設に加えるため改正する。

(可決 全員)

○平成26年度補正予算

■平成26年度仁淀川町一般会計補正予算(第1号)について

問 竹本議員

川口の若者定住用地の面積、坪単価は。



答 竹本総務課長

面積が1千180平方メートル。坪単価は3万2千493円。

問 竹本議員

池川の若者定住用地は、坪単価6万くらいだが、基準は何か。若者定住へ向けた計画は。

答 総務課長

川口の土地は、所有者が不動産屋に提示した金額で購入できた。

答 副町長

池川、吾川地区で宅地を造成販売。売れなかった場合には、若者定住住宅の整備を考えている。

問 若藤議員

3年ほど前、長者川の草を撤去したが、今後の計画は。

特定公共賃貸住宅と、普通の住宅の違いの説明を。

アオサギの駆除費が、町と漁業組合と二重に支給されているが、どのような対応をしているのか。庁舎建設は、町産材材を使用する事を前面に出していくべきでは。



答 吉田仁淀総合支所長

草の撤去は、現在話しが止まっているが、検討する。



答 大野町民課長

特定公共賃貸住宅は、

所得が町の規則で定める基準に該当し、それぞれ規則で定める住宅料を徴収している。

手元にある資料では、ハイツ清流、奈呂団地、宮力坪団地が該当。



答 大野産業建設課長

アオサギについて、町は写真確認で2千円、漁協はクチバシを持参し5千円の補助金が出ている。

答 町長

新庁舎は、地域産材をいかに使用するか、非常に強い思いを持っている。具体的な材の使用については、基本設計後になる。

問 若藤議員

西久喜団地の入居者で特定公共賃貸住宅の対象者とそうでない人がいると聞いた。議会終了後にも調べておくように。アオサギだけではなく、ニゴイも駆除の対象にならないか。

答 大野産業建設課長

ニゴイについては漁協と話しをしてみる。

問 西森常晴議員

川口の若者定住用地の造成は地の利を活かし、住宅は、仁淀川町のアイデンティティを示し一貫したものに。

答 副町長

造成については、測量設計をし考慮していく。町の在り方という視点から価値観を統一することも検討する。

問 藤村議員

長者地区の、地域づくり事業補助金は何をするのか。

補償補填賠償金は何の補償か。

料理教室や陶芸教室などの教室は、池川地区での開催が多いがなぜか。

答 仁淀総合支所長

地域づくり事業補助金は、長者地区の防災倉庫が1カ所しかないため、地域長の強い要望により2カ所増設、場所は確認ができていない。

賠償金は、織合地区のヘリポート整備に関わる送電線の移設工事補償補填費。



答 谷平教育次長

各教室は、地域の特色を活かして計画をしているが、参加人数が少なく中止となったものもある。コンサートなどは各地区で順番に行っており、要望があれば応じていく。

(可決 全員)

■平成26年度仁淀川町簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)について

(可決 全員)

○工事請負契約

■平成25年度(繰越)道整備交付金事業林道用居椿山線開設工事請負契約の締結について

契約の方法
指名競争入札

契約金額

5千2百56万円

契約の相手方

株式会社 上岡工務店

(可決 全員)

■平成25年度(繰越)道整備交付金事業町道宗津線(2工区)改良工事請負契約の締結について

契約の方法

指名競争入札

契約金額

6千1百56万円

契約の相手方

株式会社 大一林組

(可決 全員)

問 竹本議員

今年工事をする場所はどこか。この路線の地権者から、役場がかなり強引に言ってくる、工事を止めて欲しいと聞いた。地権者が納得するまで話し合いを。

答 産業建設課長

田村から過ぎた(宗津線)、橋の所からヘアピンカーブまで。

用地の交渉は地元推進委員にお願いしており、

地元説明会も行った。地権者に相談もしており、強制は一度もしていない。最終的に話し合いもつき、計画の変更もしている。

■平成26年度道整備交付金事業町道泉線改良工事請負契約の締結について

契約の方法

指名競争入札

契約金額

5千7百45万円

契約の相手方

株式会社 西森建設

(可決 全員)

問 若藤議員

予定価格が5千万以上だと議決が必要だが、契約金額で良いのでは。

答 町長

条例で予定価格が5千万円以上の事業規模には承認が必要と決まっている。

(可決 全員)

■平成26年度道整備交付金事業町道馬場線改良工事請負契約の締結について

契約の方法

指名競争入札

契約金額

4千8百27万円

契約の相手方

有限会社 大谷組

(可決 全員)

■平成26年度社会資本整備総合交付金事業町道高瀬線別枝大橋橋梁塗装工事請負契約の締結について

契約の方法

指名競争入札

契約金額

5千1百48万円

契約の相手方

株式会社 尾崎塗装工業

(可決 全員)

問 西森常晴議員

橋の色は何にするのか、赤橋が多く、特定できないので緑はどうか。

答 大野仁淀地域振興課長

色はまだ決まっていない。技術的にできない色もあるため、十分に検討する。

○その他

■固定資産評価員の選任について

住所 仁淀川町名野川39番地
氏名 下久保 幹夫
(同意 全員)

お詫びと訂正

35号16ページ中「安倍病院」は「安部病院」の誤りです。お詫びして訂正いたします。

議員活動の紹介

町議会議員は、議会中心の活動になります。しかし、議会の運営あるいは仁淀川町活性化、安全、安心な町づくりに資するため、議会外での議員活動に従事します。

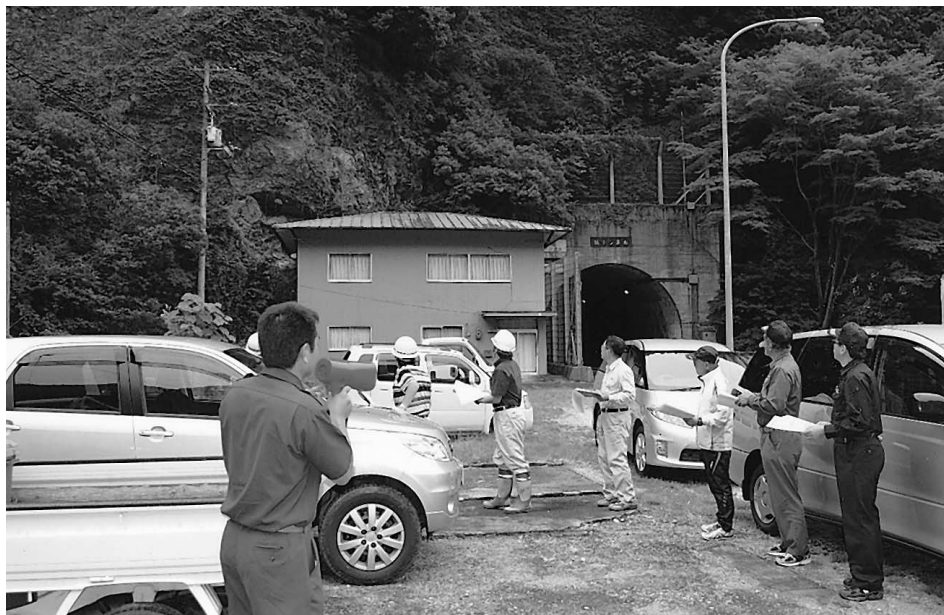
その活動状況は、最終ページの「日記帳」に記載し、概要をうかがい知ることができますが、少しでもその実態をお知らせするため、その一部を写真で紹介します。



四万十町庁舎（総務教育民生常任委員会研修より）

危険箇所チェックパトロール

6月17日防災担当職員、消防団、町議会議員、区長が南海トラフ大地震などに備え、仁淀川町を三方面（池川、吾川、長者方面）に分け、危険箇所チェック防災パトロールを実施。町内の避難所や落石の恐れのある場所を確認、防災計画への取り組みを進めた。



▲ 防災担当職員及び消防・議会議員による
合同危険箇所チェック防災パトロール ▶

仁淀川町議会からのお知らせ

議会だより発行内容の原則として、毎定例議会閉会までの間における議会活動について町民の皆さまにお知らせしております。

しかし、場合によっては活動報告が3カ月後の次号に掲載となるため、今後は、可能な範囲でリアルタイムに編集してまいりたいと考えております。

議会だより発行に当たっては、紙面の都合上各議員が一般質問通告書にしたがい、割愛編集しております。

詳しい内容をお知りになりたい方は、議会事務局にて議事録を閲覧ください。

※議事録の調整には、3カ月以上時間を要します。閲覧を希望される方は、事前に議会事務局までお問い合わせください。

問い合わせ先 仁淀川町議会事務局

35-1081



産業建設常任委員会の活動報告

産業建設常任委員会は、主に企画課、産業建設課、地域振興課及び農業委員会に関する事項について活動する。

活動内容は、現地視察を計画、実行し、視察と関係者との対話による現状の把握と評価及び課題の抽出を行う。

そして、町民が生涯幸せを実感できる街づくりのため、課題の解決を図ると共に、将来への取り組みに向けて積極的に活動したい。

町道・ヘリポート視察

5月22日産業建設常任委員、産業建設課長、地域振興課長他職員数名で、3地区各1カ所の「町道・ヘリポート」現地視察を行った。

まず池川地区は「町道椿山線・大野ヘリポート」で、道路改良が平成30年度完成予定であり、ヘリポートは今春完成している。

次に吾川地区は「町道馬場線・寺村ヘリポート」で、道路改良が平成27年度完成予定であり、ヘリポートは今春完成している。



寺村ヘリポート

そして仁淀地区は「町道泉線・織合ヘリポート予定地」で、道路改良が平成28年度完成予定である。また、ヘリポート予定地では、計画の進捗状況及び課題について視察しながら担当職員の説明を受けた。

現地視察後に意見交換

現地視察の後、出席者全員による意見交換を行った。

まず担当職員より、ヘリポート（緊急離発着場）と連絡道路の全体計画及び現在の進捗状況の説明を受け、現地視察結果を中心に意見を交わした。

説明の要旨は次の通り。

本町は散在した集落が多く、道路が寸断されると孤立してしまう地区が多いため、ドクターヘリの活用が非常に有効である。

ヘリポートの整備計画は、全町民を対象として町全体の要所を選定し、立地条件の整った地区から順次整備を行っている。

次に現地視察結果については、多量に雨が降った場合の排水施設は十分か。また、地盤沈下や盛土の流出はないか。などの質問に対し、担当職員が答えた。

また、町全体の防災に関して、地滑り対策や豪雨対策についての活発な議論が交わされた。

最後に、今回は建設の現場視察であったが、今後は他の分野の現場視察も積極的に行い、さまざまな課題の解決に取り組むたい。

